

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2007年11月下旬から12月下旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月下旬には断続的となりほぼ終漁する。
- (2) 漁場: 11月下旬は、釧路～襟裳岬沖に散発的ながら漁場が残る可能性もあるが、終漁となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 11月下旬の来遊量は、中位水準ながらも徐々に減少する。12月上旬以降も減少を続け低位水準となる。12月中旬には断続的な来遊となり、ほぼ終漁する。
- (2) 漁場: 11月下旬～12月上旬は、宮古～金華山沖が漁場となる。12月中旬には宮古沖の漁場は消滅し、大船渡～金華山沖の漁場が残る可能性がある。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 11月下旬は中位水準にまで増加する。12月上旬から減少を始め、12月中旬以降は低位水準となる。
- (2) 漁場: 11月下旬～12月上旬は、常磐北部～犬吠埼周辺に漁場ができる。12月中旬には常磐北部の漁場は消滅し、12月中旬～12月下旬は小名浜～犬吠埼周辺が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量	— →			
	動向	断続的			
	漁 場	釧路～襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量	↘	↘	— →	
	動向	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	宮古～金華山沖	宮古～金華山沖	大船渡～金華山沖	
常磐海域	来遊量	↗	↘	↘	↘
	動向	中位増加	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部～犬吠埼周辺	北部～犬吠埼周辺	小名浜～犬吠埼周辺	小名浜～犬吠埼周辺

3. 漁況の経過概要

(11月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬をやや下回ったものの、前年を大幅に上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南～厚岸大黒島南南東の 15～30 海里付近(表面水温 10～11℃)、釧路南～南南東 30～60 海里付近(10～11℃)、襟裳岬南～南東の 40～55 海里付近(11～15℃)であった。落石～厚岸沖では、2～6 日夜に、ほぼ連日小型船 20～50 隻操業し、7～30 トン漁獲。釧路沖では、6～8 日夜に小型船数隻～25 隻程度操業し、25～30 トン漁獲。襟裳岬沖では、2～4 日夜と 8 日夜に大型船数隻操業し、数トン～80 トン漁獲。

(3) 魚体

28～29cm モードの大型魚・中型魚主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬や前年を下回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にやや来遊量が増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古北北東～東南東の 10～40 海里付近(13～18℃)、金華山東 10 海里付近(18～20℃)であった。宮古沖では、連日小型船 20～30 隻と大型船 20～50 隻程度操業。小型船で 10～30 トン、大型船で 30～100 トン以上漁獲。金華山沖では、3 日夜に大型船数隻操業し、10～95 トン漁獲。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体で、27～28cm モードの中型魚が混じる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬と変わらず低位水準であった。

(2) 漁場

常磐海域の主漁場は、小名浜東北東～南東の 20～25 海里付近(18℃)、那珂湊東北東 20 海里付近(18℃)であった。小名浜沖では 1・5・10 日夜に大型船が数隻操業。数トン～70 トン漁獲。那珂湊沖では、7 日夜に大型船が操業したが、数トンの漁獲にとどまった。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体で、27～28cm モードの中型魚が混じる。